

## 統計センターの役割・業務等の在り方に関する研究会（第5回）議事概要

- 1 日時 平成18年6月27日（火） 14時00分～15時30分
- 2 場所 総務省第2庁舎 6階特別会議室
- 3 出席者  
構成員：坂東真理子座長、飯島英胤委員、飯塚悦功委員、佐藤博樹委員  
総務省：衛籐英達統計局長、田口和也総務課長  
独立行政法人統計センター：中川良一理事長、鈴木少慈理事、鈴木基之理事、  
吉澤正理事、佐伯修司総務課長
- 4 議題  
統計センターの役割・業務等の在り方に関する提言について
- 5 配布資料  
資料1 統計センターの役割・業務等の在り方に関する提言（骨子（案））  
資料2 統計センターの役割・業務等の在り方に関する提言（案）
- 6 議事の概要

資料2に基づき、事務局から統計センターの役割・業務等の在り方に関する提言（案）について説明が行われ、意見交換が行われた。その結果、これまでの議論を踏まえ、構成等を含めて内容を整理し、7月中の取りまとめを目指すこととなった。なお、提言の取りまとめに向けた今後の進め方については、座長一任とされた。

主な質問、意見等は以下のとおり。

コアコンピタンスが不可欠な業務と、その周辺的な業務とを分けて整理すべき。「コアコンピタンスの維持・向上に関連の深い業務」という表現は、後者の中でも必要なものはある、ということ強調して主張しているように見えるので、表現を工夫すべき。

第1章で記述している統計センターの強みと、第2章で述べているコアコンピタンスとの関係がわかりにくい。同じものなら、コアコンピタンスのことはもっと前に記述してよい。

現在だけでなく、将来も見据えて、どのような社会的ニーズがあるか、ということをもっと整理してほしい。社会的なニーズから導かれるミッションに対して、目的志向で動いていくということをはっきりと示すべき。そのようなニーズから、統計センターが保有すべき能力や経営改革の話も出てくる。

（社会的ニーズとの関係について）「3(1)統計センターの貢献可能性」などの記述をわかりやすく整理すべき。全体的に遠慮しすぎた表現となっているので、もっと積極的に記述すべき。

また、センターが出来ることを何もかも書こうとしてわかりにくくなっている。むしろ、ニーズから求められる機能や果たすべき機能は何か、ということを書き、すっきりと書くべき。その上で、（そのような機能を果たすのに）自らやるか、他に任せるか、という流れになるのではないか。

組織としての研究開発機能の充実の必要性についても、明確に記述すべき。センターが将来に向けて改革目標とすべきこととして、人材の育成と研究開発の2つがあるのではないか。

この研究会で何を議論しようとしたのかを論理的に記述すべき。社会的なニーズに対応するとともに、行政改革にも対応して減量化を進めていかなければならない。その方向性を導き出すため研究会での議論が必要になったということは、「はじめに」でも整理して記述すべき。また、「むすび」の記述も、さらに工夫が必要。

コアコンピタンスは能力で見るか事業で見るかでかなり違ってくる。統計センターについて能力で見れば、高度な専門能力、高度な判断力、高度な企画管理能力、高度な機密性ということになるのではないか。

全体をわかりやすく示すため、図のようなものでわかりやすく示してはどうか。そのような資料の中で、期待されている役割の重要さや社会のニーズとの関係といったことがわかると良い。

指摘のあった事項は、要素としては文章の中に書かれているが、もう少し整理が必要と思われる。

<文責：総務省統計局（速報のため、今後、修正の可能性あり）>

以上